学校番号	２０２

令和２年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新版　数学Ｂ　新訂版（実教出版）						
副教材等	アクセスノート　数学Ｂ　改訂版（実数出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、与えられた課題に対して自ら考え、周りの人とも協力して活動を行うことができる環境を目指します。
「まず課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程の中で、自分の考えを発表したり、周りの人と議論したりする活動を行います。
家庭学習における課題を、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずにきちんと取り組みましょう。
毎回の授業を大切にし、休まず集中して授業を受けるようにしましょう。

２　学習の到達目標

ベクトル、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、さまざまな事柄を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	ベクトル、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、さまざまな事柄を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身につける。	数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決し、判断することができる。 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析･整理し，数学的に考察したことを明確に表現することができる。	数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 構成した数学的知識の意味を考え，更に見いだした数学的知識をいろいろな場面に活用できる。
評価方法	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に 評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に 評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に 評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に 評価する

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="3">一学期</td><td rowspan="3">数列</td><td>数列とその和</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">a:等差数列や等比数列の一般項やその和について興味・関心をもち，取り組む。
b:数列の一般項やその和を求める数学的な思考過程を発展的に捉えることができる。
c:数列の特徴を理解し，一般項やその和を求める公式を適切に活用し，表現することができる。
d:与えられた数列を適切に分類し，活用するべき公式を理解している。</td><td rowspan="3">確認テスト
単元テスト
ワークシート
観察等</td></tr>
<tr><td>いろいろな数列</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>数学的帰納法</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">二学期</td><td rowspan="3">平面上のベクトル</td><td>平面上のベクトル</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">a:新しいベクトルの考え方や用語・記号を進んで習得しようとする態度を示す。
b:ベクトルの幾何的考え方のよさがわかる。ベクトルの加法・減法・実数倍などの代数的考え方がわかる。
c:ベクトルの加法・減法・実数倍、成分によるベクトルの演算やその大きさを求める過程を適切に表現し，処理することができる。
d:ベクトルを図形的に捉え，その記号の表現方法を理解している。</td><td rowspan="3">確認テスト
単元テスト
ワークシート
観察等</td></tr>
<tr><td>ベクトルの内積</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ベクトルの応用</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

三学期	空間のベクトル	空間のベクトルとその演算	○	○	○	○	a:平面のベクトルから空間のベクトルへの拡張に興味を示す。空間図形において，ベクトルの内積や位置ベクトルを用いて考察しようとする。 b:平面のベクトルから空間のベクトルへ拡張して考察できる。ベクトルの内積や位置ベクトルを，平面から空間へ拡張して考察できる。 c:座標空間における図形を点の座標や距離を用いて表すことができる。 平面のベクトルと同様にして，空間のベクトルを利用した表現・処理ができる。 d:座標空間における図形の座標や距離を求めることができる。 平面のベクトルと同様に，空間のベクトルでの知識・理解がある。空間においてもベクトルの内積を計算できる。 ベクトルの基本性質が平面と同様であることを理解し，それを扱うことができる。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		空間ベクトルの応用	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。